

## 情報プラットフォームを活用したハード・ソフト施策の推進 Promotion of hard and soft project by utilizing information plat-form

細川 直樹\*  
Naoki Hosokawa

### 1. はじめに

農地・農業用水は、農業生産に欠くことのできない基礎的な資源であり、農業就業者の減少や高齢化等が進行する中で、良好な営農条件を備えた農地・農業用水の確保と有効利用を通じて、国内農業の生産性の向上と食料自給率・食料自給力の維持向上を図ることが不可欠である。

新たな食料・農業・農村基本計画（平成 27 年 3 月 31 日閣議決定）においては、構造改革の加速化や国土強靱化の観点から、担い手への農地集積・集約化や生産コストの削減に資する農地の大区画化、汎用化等の整備を推進するとともに、老朽化等に対応した農業水利施設の戦略的な保全管理を推進することとしている。

これらの推進に当たっては、農地にあつては区画形状、ほ場の均平度、排水性等、農業水利施設にあつては点検、機能診断結果等の性状が判断できる情報を把握・整理し、利用していくことが有効であるが、その際、地理情報システム（GIS）の様々な編集機能（色分け、重ね合わせ、集計等）を活用して行えば、業務の効率化につながるとともに、情報の視覚化により円滑な合意形成にも役立てていくことができる。

このため、基本計画においては、農地整備や施設保全管理の計画的かつ効果的な実施に資する主要な施策の一つとして、地理情報システムを活用した情報の蓄積、可視化、共有を位置付けており、具体的な取組として、既存の地理情報システムに、農林水産省が保有している農地の整備状況や国営造成水利施設等の保全管理に関する情報を蓄積し、可視化するとともに、国、地方公共団体、土地改良区等の関係者の間で共有を図る「情報プラットフォーム」の取組を進めているところである。

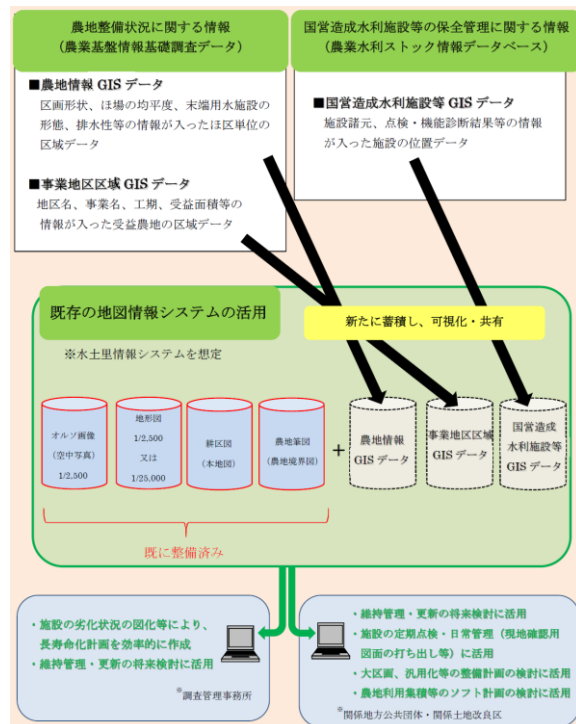


図-1 情報プラットフォームの概要

\* 農林水産省 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries

キーワード: GIS, 農地整備, 農地集積, 施設保全管理

## 2. 情報プラットフォームの概要

この情報プラットフォームの取組（図-1）は、①農林水産省農村振興局が全国的に実施している農業基盤情報基礎調査における農地整備状況に関する情報（区画形状，ほ場の均平度，排水性，末端用水施設の形態等）や，②関東農政局利根川水系土地改良調査管理事務所が管理運営している農業水利ストックデータベースにおける国営造成水利施設等の保全管理に関する情報（施設諸元，点検，機能診断結果等）を，既存の地理情報システムにGISデータとして蓄積し，可視化するとともに，関係者間で共有を図り，農地整備計画（大区画化，汎用化，畑地かんがい導入等）や施設の長寿命化計画の検討等のハード面での活用だけでなく，農地利用集積計画や地域営農計画の検討等のソフト面での活用など様々な施策に幅広く役立てていこうというものである（図-2,3）。

なお，ここでいう既存の地理情報システムとしては，これらの情報を使って様々な検討を行う上で前提となるオルソ画像（1/2,500），耕区図，農地筆図等の背景図や基図が既に整備されている水土里情報システム（全国の地方土地改良連合会が管理運営しているシステム）を主に想定している。

## 3. おわりに

この情報プラットフォームの取組を通じて，農林水産省が保有しているビックデータが関係者の間でハード面・ソフト面で幅広く活用されることにより，業務の効率化や円滑な合意形成に役立ててもらおうとともに，基幹から末端に至る一連の施設の保全管理の充実・強化など地域における農業の構造改革や国土強靱化の取組が推進されることを期待している。

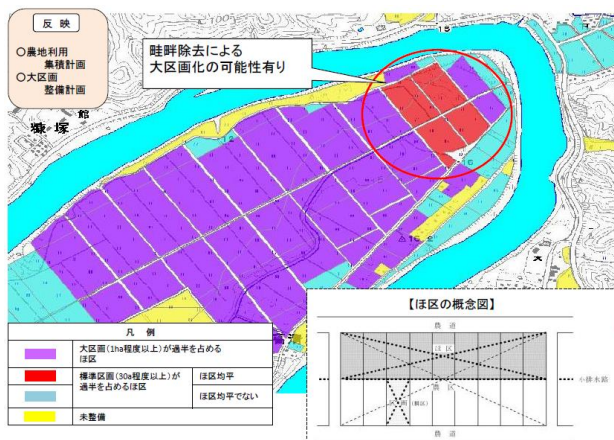


図-2 大区画化や農地集積計画への活用イメージ



図-3 汎用化や地域営農計画への活用イメージ